

# 日本福祉大学 通信教育部

## 科目概要 2020年度

### 各分野を超えて幅広く選択できる独自のプログラム

「ビジネス」「コミュニティ・国際協力」「医療・福祉」「ヘルスケア・ライフ」をマネジメント4分野としたカリキュラム体系により、専門的な能力を養成します。

学生一人ひとりの関心に基づき、各分野を超えて幅広く履修できる独自の教育カリキュラムです。

#### 基礎科目

経営・会計・法律など、一般教養科目を学ぶことができます。それぞれの目的に合わせて自由に科目を選択できます。

#### 専門科目

##### ビジネスマネジメント科目群

医療・福祉・環境分野における社会貢献型のビジネス動向を通じて、経済・企業における原理と構造を把握し、社会に貢献する企業組織の知識と技術を学びます。

##### コミュニティマネジメント・国際協力科目群

国内外の地域における医療・福祉・環境・経済の問題について理解を深め、コミュニティベースのマネジメント手法を学びます。

##### 医療・福祉マネジメント科目群

医療・福祉における制度や組織への総合的な理解を深め、病院、施設などの組織における実践的なマネジメント手法を学びます。

##### ヘルスケア・ライフマネジメント科目群

高齢者や障害者のニーズを的確に把握し、これに応えるための知識と技術を身につけることで家庭を基軸とした福祉マネジメントのノウハウを学びます。

# 目次

(1) テキスト科目、オンデマンド科目	1	精神保健学 <b>精</b>	9
【基礎科目】	1	精神保健福祉相談援助の基盤 <b>精</b>	9
福祉経営序論 (オンデマンド版) <b>必</b>	1	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I <b>精</b>	9
スタートアップセッション <b>必</b>	1	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II <b>精</b>	9
経営学	1	精神保健福祉に関する制度とサービス <b>精</b>	9
経済学	1	精神障害者の生活支援システム <b>精</b>	9
簿記	1	ファイナンシャルプランニング総論 <b>A</b>	9
民法	1	金融資産運用設計 <b>A</b>	9
日本史	2	不動産運用設計 <b>A</b>	9
生物学	2	ライフプランニングと資金計画 <b>A</b>	10
福祉社会入門	2	リスク管理と保険 <b>A</b>	10
実践英会話	2	タックスプランニング <b>A</b>	10
英語プレゼンテーション	2	相続・事業承継設計 <b>A</b>	10
インターネット演習 I	2	ファイナンシャルプラン作成 <b>A</b>	10
インターネット演習 II	2	(2) スクーリング科目	10
社会福祉学 <b>社 精</b>	2	【基礎科目】	10
社会学 <b>社 精</b>	2	福祉経営序論 <b>必</b>	10
心理学 <b>社 精</b>	2	フォローアップセッション I (効果的な学び)	10
医学概論 <b>社 精</b>	2	フォローアップセッション II (実践的な学び)	10
社会福祉調査論 <b>社</b>	3	障害者スポーツ研究	11
学びの技法 I (文書の読解と作成) <b>新1,2,全</b>	3	【専門科目】	11
学びの技法 II (文書作成演習)	3	論文・レポート作成基礎 I	11
論文・レポート作成基礎 II	11	論文・レポート作成基礎 II	11
研究論文指導	11	【専門科目：ビジネスマネジメント科目群】	11
【専門科目：ビジネスマネジメント科目群】	3	日本企業の経営・会計	11
マーケティング	3	【専門科目：コミュニティマネジメント・国際協力科目群】	12
財務会計	3	地域再生	12
管理会計	3	国際開発と貧困問題	12
労働法	3	【専門科目：医療・福祉マネジメント科目群】	12
人的資源管理	3	社会福祉政策国際比較	12
経営組織と戦略	3	社会福祉と権利擁護	12
ベンチャー経営	4	社会福祉法人のマネジメントと会計	12
医療福祉ビジネス	4	医療福祉システムの理論と実践	12
【専門科目：コミュニティマネジメント・国際協力科目群】	4	医療福祉制度と暮らし	13
NPO論	4	ソーシャルワークと専門職	13
コミュニティマネジメント	4	社会保障の制度と課題	13
地域環境計画	4	ケアマネジメント入門	13
国際開発	4	福祉現場の人材養成	13
環境論	4	スクールソーシャルワークと学校現場	13
国際福祉開発	4	地域福祉と災害ソーシャルワーク	14
福祉社会開発の支援ワーク	4	単身世帯と社会政策	14
【専門科目：医療・福祉マネジメント科目群】	5	認知症ケアと多職種連携	14
福祉社会システム論	5	子どもの貧困の現状と支援	14
医療政策論	5	司法と福祉の連携とソーシャルワーク	14
医療経済学	5	福祉・介護のマネジメントとリーダーシップ	14
医療福祉経営論	5	認知症の人と地域包括ケア	14
医療・福祉サービス論	5	【専門科目：ヘルスケア・ライフマネジメント科目群】	15
非営利マーケティング論	5	精神障害者と福祉実践 I	15
社会福祉法人会計	5	精神障害者と福祉実践 II	15
社会福祉援助技術論 I <b>社</b>	5	精神・発達障害者の理解と共働	15
社会福祉援助技術論 II <b>社</b>	5	障害者政策と自立支援	15
社会福祉援助技術論 III <b>社</b>	6	脳のエイジングと認知機能	15
地域福祉論 <b>社 精</b>	6	福祉とテクノロジー活用	15
福祉行政と福祉計画 <b>社 精</b>	6	ユニバーサルデザインと暮らし	16
福祉経営論 <b>社</b>	6	地域包括ケアシステムと未来型先端テクノロジー	16
社会保障論 <b>社 精</b>	6	アディクションとソーシャルワーク	16
高齢者に対する支援と介護保険制度 <b>社</b>	6	【フィールドスタディ科目】	16
障害者福祉論 <b>社 精</b>	6	スウェーデン研修	16
児童福祉論 <b>社</b>	6	(3) 資格科目 (演習・実習科目)	16
公的扶助論 <b>社 精</b>	6	【社会福祉士国家試験受験資格】	16
保健医療サービス <b>社 精</b>	6	相談援助演習 I <b>社</b>	16
就労支援サービス <b>社</b>	6	相談援助演習 II <b>社</b>	17
権利擁護と成年後見 <b>社 精</b>	7	相談援助演習 III <b>社</b>	17
更生保護 <b>社</b>	7	相談援助実習指導 I <b>社</b>	17
認知症の医療とケア	7	相談援助実習指導 II <b>社</b>	17
ヒューマンケアのための多職種連携	7	相談援助実習 <b>社</b>	17
【専門科目：ヘルスケア・ライフマネジメント科目群】	7	【精神保健福祉士国家試験受験資格】	17
福祉文化論	7	精神保健福祉援助演習 I <b>精</b>	17
死生学	7	精神保健福祉援助演習 II <b>精</b>	17
生涯学習論	7	精神保健福祉援助実習指導 I <b>精</b>	17
高齢者の心理	7	精神保健福祉援助実習指導 II <b>精</b>	18
スポーツマネジメント	8	精神保健福祉援助実習 <b>精</b>	18
福祉情報技術	8		
リハビリテーション医学	8		
健康格差社会	8		
産業組織心理学	8		
シルバーファイナンス	8		
発達精神病理学	8		
精神障害者支援論	8		
精神医学 <b>精</b>	8		

## 凡例

- 必** 「福祉経営序論」と「スタートアップセッション」は必修科目です。「福祉経営序論」はオンデマンドかスクーリングいずれかを、「スタートアップセッション」はオンデマンドを必ず履修してください。「スタートアップセッション」はスクーリングでの開講はありません。
- 社** 社会福祉士国家試験受験資格指定科目 **精** 精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目 **A** AFP資格審査試験受験資格指定科目
- 新1,2,全** 新1、2年次入学生全員履修科目

以下の開講科目の内容については変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。  
また、開講科目の内容は本学ホームページ <https://www.nfu.ne.jp/> においてもご覧になれます。

[注意] 一部の開講科目には履修要件が定められています。

スウェーデン研修、研究論文指導、精神・発達障害者の理解と共働、学びの技法Ⅱ（文書作成演習）

## 凡 例

**必** 「福祉経営序論」と「スタートアップセッション」は必修科目です。「福祉経営序論」はオンデマンドかスクーリングいずれかを、「スタートアップセッション」はオンデマンドを必ず履修してください。「スタートアップセッション」はスクーリングでの開講はありません。

**社** 社会福祉士国家試験受験資格指定科目

**精** 精神保健福祉士国家試験受験資格指定科目

**A** AFP 資格審査試験受験資格指定科目

**新1、2全** 新1、2年次入学生全員履修科目

## (1) テキスト科目、オンデマンド科目

### 【基礎科目】

科 目 名	福祉経営序論（オンデマンド版） <b>必</b>	単 位 数	1 単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	綿祐二ほか		
通信教育課程の導入教育として、福祉経営とは何かを明らかにし、福祉経営を学ぶうえでの課題や方法について論ずる。講義を通じ、福祉経営学習の全体の見取図を与え、知識の追求、問題解決の探求等々に向けての学習意欲を喚起する。					
科 目 名	スタートアップセッション <b>必</b>	単 位 数	1 単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	学習指導教員		
卒業までの道筋を理解し、自分の目標や状況に応じた学習計画を立てる。					
科 目 名	経営学	単 位 数	4 単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	柳在相		
企業経営の基礎を理解するには、組織マネジメントという視点にたって、経営目標の達成に向けた効率的なマネジメントのプロセスをおさえるとともに、変貌する経営環境に適応していくプロセスにも留意することである。企業と環境、組織の構造と過程、組織の変革といった企業経営の中心課題をみとうえて、医療・福祉、環境ビジネスなどといった分野のマネジメントの問題を認識していく枠組みを学ぶ。さらに、21世紀の産業経営の将来ビジョンとして示されている社会貢献型経営についても検討し、企業経営のあり方についても考察する。					
科 目 名	経済学	単 位 数	4 単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	上田和宏、谷地宣亮		
私たちの社会では、家計、企業、銀行、政府などの組織がさまざまな経済活動を行っています。自国と外国との関係も無視できません。経済を勉強していくにあたり、それらの活動がどのように関わり合い、結果としてどのような経済状況が生み出されるのかについて考えます。本講では、そのために必要な経済学の基礎的な理論を学び、理論的に考える練習をします。同時に、現実の経済についての理解を深めるため、日本経済の姿についても考えます。					
科 目 名	簿記	単 位 数	2 単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	新谷司		
簿記とは、企業の経営活動を計数的に記録し、それを集計して企業の経営成績や財政状態を知るための計算処理記述である。最初に、簿記の基本的仕組みを理解する。次いで、商品売買業を営む個人商店における諸取引の仕訳と一連の決算手続きについて習得する。仕訳例や設例を利用して簿記知識の効率的習得を目指す。					
科 目 名	民法	単 位 数	4 単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	近藤充代		
民法は、市民間の財産関係、取引関係、身分関係を規律している法律である。本講では市民生活にとって身近である消費者問題を題材に、現代社会における民法の役割を理解するとともに、法的な思考方法を修得することをめざしたい。具体的には、消費者被害の救済という観点から、民法総則（制限能力者制度、意思表示等）、契約の基礎（契約の成立、効力、解除等）を学習した上で、消費者契約の取消権やクーリング・オフなどを規定する消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法等の民法特別法（消費者法）についても理解を深めたい。					

科目名	日本史	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目	
		担当教員	曲田浩和			
<p>通史的叙述を柱としつつ、視点・論点についての解説を加えたテキスト（学習差指導書「日本史」を含む）を主要教材としながら、歴史的事象が起こった背景・原因を踏まえ、その結果を考えていく。歴史は時代の流れであり、個別事象を覚えることではない。社会のなかで歴史的事象を位置づけることも必要である。単に昔のことを学習するだけでなく、人間の行為として、現代につながる視点を大切にしながら、歴史的理解を深める。</p>						
科目名	生物学	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目	
		担当教員	水野暁子			
<p>生物の基本構造である細胞膜を中心として、生物らしい構造と機能について理解する。特に、人間とは違った構造を持つ植物について、成長、水や養分の吸収、情報伝達などの生理的機能と、細胞や組織の構造との関わりについて詳しく学習する。植物がどのような構造と機能を基にして、環境に対する適応や反応を行っているかを認識することで、酸性雨などの環境問題について考えることができるような、基礎的な力をつける。</p>						
科目名	福祉社会入門	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目	
		担当教員	中村信次			
<p>「福祉」という言葉は「しあわせ」を意味する。その英文であるウェルフェアは、「よりよく生きる」という意味である。福祉社会は、「いのち」「くらし」「いきがい」を大切に、人がゆたかに生きていくことを支える社会である。福祉社会を実現するためには、社会福祉をはじめとして、さまざまな分野の研究や実践が力を合わせる必要がある。これを日本福祉大学では「人間福祉複合」と呼んでいる。「福祉社会入門」では、「人間福祉複合」の観点から「福祉」への接近について学ぶ。</p>						
科目名	実践英会話	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目	
		担当教員	影戸誠			
<p>看護師の洋子さんがハワイの病院の視察を行うというストーリーで基本的な英会話を学ぶが、英会話だけでなく、英語を使う場面での基本情報、異文化についても学ぶ。アポイントの取り方、パスポートの取得や、英文電子メールなどの学習も行いPCの特性を生かし、単語の反復練習を行う。英語レベルは英語Ⅰを想定。単語数は1500語レベル。</p>						
科目名	英語プレゼンテーション	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目	
		担当教員	影戸誠			
<p>東京オリンピック、外国人観光客、地域や職場での国際化、今まさに英語学習の成果が問われる場面が出てきています。これまで英語活用の場面がなかったがゆえに、「活用されなかった英語」に息吹をあたえるのがこの講義の目標です。覚えていても出てこない単語、記憶をしても使えない単語、そんな学習レベルの英語を、活用レベルに変えるがこの科目の特徴です。「だいたい分かっている」表現が多いかと思いますが、活用レベルにまで上げるには、イメージなどを使って何回も反復し、確実に定着させていきます。</p>						
科目名	インターネット演習Ⅰ	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目	
		担当教員	影戸誠			
<p>パソコンやインターネットなどについての基本的な内容を学習する。具体的には、ワープロ、表計算ソフトの基本的な活用の他、画像の取り扱い、ネットワークを用いたコミュニケーションなどを取り上げる。基本的な事項を確実におさえることにより、道具として適切に、安心して、自分なりのスタイルで有効に活用していくことができるようになることを目指す。</p>						
科目名	インターネット演習Ⅱ	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目	
		担当教員	影戸誠			
<p>職場や学校での魅力あるプレゼンテーションは今後ますます重要になってくる。相手に何が残ったのか、そのことが情報伝達の結果である。情報を正確に、スマートに相手に伝える。これがこの科目のテーマである。日本人は情報伝達や説明が下手だといわれるが、方法さえわかれば効果的な情報伝達が可能である。話す順番を考え、効果的な図やグラフを使い、さらに話し方のポイントを学ぶ。これを機会にその手法を是非、身につけてほしい。</p>						
科目名	社会福祉学	社精	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	明星智美		
<p>本科目は、社会福祉を専門的に学ぶための導入科目の位置づけである。社会福祉の全体像をできるかぎり総合的、体系的な枠組みと方法に総合化し、理論化したものを受講生と共有し、学問的な基礎をつくることを目的とする。</p>						
科目名	社会学	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	山口宏		
<p>社会学は身近なコミュニケーションから家族、地域、メディア、そしてグローバルな問題など、非常に幅広い対象を扱うもので、受講者はやや戸惑いもあるかもしれない。しかし社会制度や生活の歴史の変遷やさまざまな領域の問題を見ていくことで、福祉の現場実践を行なっていくうえでの背景知は広がっていくはずである。個々の問題や人に向き合っていくなかで、その背後にある社会の広がりを考えたり、常識とされる価値観を問い直してみたり、多様な視野を身につけることができればと思う。</p>						
科目名	心理学	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	中村信次		
<p>人間の心の問題を広く取り扱う心理学の知識は、福祉の現場をはじめとした、様々な人とかかわる環境において、円滑な人間関係を構築する上で重要な役割を果たす。現代社会で大きな課題となっている心の健康の問題や心理的支援の方法等を広く講義することにより、人の心を理解するための科学的アプローチに関し、基礎的な理解を得ることを目的とする。</p>						
科目名	医学概論	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	日月裕		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長や発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</li> <li>・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</li> <li>・リハビリテーションの概要について理解する。</li> </ul>						

科目名	社会福祉調査論	社	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	川床憲一、訓覇法子		
<p>社会福祉が対象とする領域は、国（マクロ）、地域や組織（メゾ）、個人・家族（ミクロ）と広範囲であり多次元に及ぶ。したがって、社会福祉分野の調査・研究には、多角的視野や複合的調査・研究方法、分析理論が必要となる。社会調査は19世紀のヨーロッパの貧困調査に遡り、科学及び実践としての社会福祉と重要な接点をもつ。社会調査の一分野をなす社会福祉調査は未発達分野であるが、社会福祉の対象が多様化する中、科学的根拠に基づいた実践を進展させるにあたって重要な意味をもつ。講義の目的は三つあり、①社会調査の意義と目的及び方法の概要、②統計法の概要や社会調査における倫理及び個人情報保護、③量的及び質的調査の方法に関する基礎知識を習得することである。</p>						
科目名	学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成）	新1、2、全	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	学習指導教員		
<p>大学生がA4用紙1-2枚程度の論理的な文書を読解する場合と作成する場合に必要なことがらを理解する。論理的な文書には、正しい文法に基づいていること、適切な語彙を利用すること、適切な推論の方法を利用していること、主張と根拠を明確に示していること、できるかぎり確かな根拠を示していること、等が必要である。</p>						
科目名	学びの技法Ⅱ（文書作成演習）		単位数	1単位	科目形態	テキスト科目（クラス制科目）
			学年配当	2年	担当教員	学習指導教員
<p>A4用紙1～2枚程度の論理的な文書（小論文、レポート等）の読解と作成の能力を、問題の演習と「添削指導」を通じて修得できるようにする。この「添削指導」とは、【nfu.jp】上で提示される添削課題（レポート）に対し、決められた文字数で解答したレポートを提出し、【nfu.jp】上で教員から添削指導を受けるものである。「学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成）」で学んだ文書作成のルール等に基づき、適切な文章の表現や展開等を学ぶことができる。「学びの技法Ⅰ（文書の読解と作成）」の発展科目のため、同科目の単位修得者が履修できる科目とする。</p>						

## 【専門科目：ビジネスマネジメント科目群】

科目名	マーケティング		単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	小木紀親		
<p>本講義の目的は、マーケティング理論を習得するとともに、市場における競争及び差別化の概念と、実際かつ今日の企業等のマーケティング戦略の仕組みを多面的に理解していくことにある。具体的には、マーケティング戦略の4つの軸（製品戦略、価格戦略、流通チャンネル戦略、プロモーション戦略）を中心として、今日的な企業及びその他の組織のマーケティング活動や市場における多様なマーケティング現象を理解・考察し、それらを通じてマーケティングの基礎と応用を学んでいきたい。</p>						
科目名	財務会計		単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	新谷司		
<p>財務会計とは、会計基準や会計慣行に規制され、企業の財政状態や経営成績に関する情報を作成し外部の利害関係者に報告することを意味する。本講「財務会計」では、日本の会計制度に基づいて、会計規制の体系、財務諸表の様式とその意義、棚卸資産会計、固定資産会計、有価証券会計、引当金会計、負債会計、純資産会計、資産の評価基準、費用・収益の認識基準、連結財務諸表などを取り上げる。</p>						
科目名	管理会計		単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	内野一樹		
<p>管理会計の概念や歴史を学ぶことを通して、経営管理者の意思決定や業績管理に役立つ会計情報システムの設計・運用について理解を深める。管理会計は、企業などの営利組織の内部で、戦略や計画の策定、経営管理者の目標設定と実績評価に役立つ情報を提供してきたが、今日では病院、福祉施設、文化団体等の非営利組織でも導入が進んでいる。</p>						
科目名	労働法		単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	渋谷典子		
<p>産業構造の変化、経済のグローバル化、急速に進む少子高齢化に伴う労働力の減少等、労働者の置かれる環境は常に変化を繰り返している。労働法もその変化に対応すべく、その姿を変容させている。労働基準法は制定後に何度も改正を繰り返し、男女雇用機会均等法や労働者派遣法の大幅な改正がなされ、労働契約法も制定された。そして、2018年には「働き方改革関連法」が成立した。この変化し続ける労働法の「今」に向き合い、「今」につながるプロセスを学ぶことがこの講義の目的である。そして、「今」は、「未来」へつながり、その「未来」における労働法の姿も思い描くことができるはずである。これまで蓄積されてきた労働法の判例と学説について学び、労働法の基本的な知識と考え方を学ぶ場として、本講義を活かしていただきたい。</p>						
科目名	人的資源管理		単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	飛田正之		
<p>企業の経営活動に必要な「ヒト」、つまり人的資源の管理について学ぶ。企業におけるさまざまな人的資源管理の制度、労働や雇用に関する実態を理解する。さらには、実際に企業、職場ではどのような人材の管理が行われているのかを、さまざまな調査をもとに考察を深めていく。</p>						
科目名	経営組織と戦略		単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	張淑梅		
<p>本テキストは、組織とは何か、優れた組織の動き方、特徴を、組織論と経営戦略論の視点から学ぶことを目的とする。まず現代社会の基礎的構成要素としての組織の行動や構造、変化のメカニズムを説明する。次に組織を環境との相互作用をもつオープンシステムと認識し、激動する環境の変化に対応するための経営戦略、組織変革、さらに情報革命のもとで展開されつつある新しい組織と戦略について事例を交えて論じていく。</p>						

科目名	ベンチャー経営	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	柳在相		
<p>日本におけるベンチャー企業を取り巻く経営環境に着目し、とりわけアメリカとの比較を通して、いかにしてより多くのニュービジネスを生み出すかについての議論を展開する。そして、セコムなどのような目覚ましい成長をおさめているベンチャー企業に焦点をあて、その創業から今までの成長プロセスを詳細に考察していく。これらのベンチャー企業の成長プロセスにはどのような阻害要因が存在し、それぞれの阻害要因をいかにして克服することができたかに注目することによって、ベンチャー企業の経営（企業家精神及び戦略的発想、事業仕組の構築、組織デザインなど）についての理解を深めていきたい。</p>					
科目名	医療福祉ビジネス	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	後藤芳一		
<p>社会構造や消費者意識の変化が進み、医療・福祉事業をめぐるニーズは、かつてない速さで変化している。国も、財政制約の下でサービスの質を維持するよう模索している。これを受け、制度の改革が急速に進んでいる。一方、従来の医療・福祉事業は、公的制度のもとで収入が保障され、外的環境に受け身で対応する傾向があった。今後は、固有の環境を踏まえた経営のあり方が事業の存続を決める。それには、サービス提供者として受け手から支持されるよう、経営を組み立てる必要がある。本講は、医療・福祉サービスの専門家、自ら状況を判断して進路を構築できるよう、経営の基本的な枠組を整理する。</p>					

## 【専門科目：コミュニティマネジメント・国際協力科目群】

科目名	NPO論	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	雨森孝悦		
<p>この科目では、履修者が市民社会組織としてのNPOについて、基礎的な知識を得ることを目的とする。NPOは民間非営利組織の一種なので、民間営利組織にどのような種類があり、それらの間にどのような違いや共通点があるのかわかるようにする。しかしそれに止まらず、NPOがなぜ存在するのか、実際にその運営に関わるときにどのような問題に遭遇し、どう対処すべきかについての具体的な方法についても考えてもらう。</p>					
科目名	コミュニティマネジメント	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	生江明		
<p>この科目では、内外の様々なコミュニティ・マネジメントの事例を通して、コミュニティとは何であるのか、そしてそのマネジメントとはいかにあるべきなのかを考察する。社会的存在である人間たちが、そのより良き人生の実現のために自然と社会資源をいかに組織化し、豊饒化していくかというプロセスは、行政サービスの客体としての人間ではなく、コミュニティのマネジメント主体としての人間たちを、これらの事例の中に、そして、その社会哲学の中に、見出すことになるだろう。</p>					
科目名	地域環境計画	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	阿蘇裕矢		
<p>人間の生活と環境について考察し、その調和を図っていくためのマネジメント方策について論ずる。特に、コミュニティレベルから、都市・農山村、地域空間レベルにおける環境問題に着目し、主としてこれまでに行われてきた環境計画の方法を学ぶとともに、人間にとって求められる環境のあり方について考察を行う。さらに、空間のレベルや環境の特性に合わせた環境計画の手法、施策、政策等について論じ、これからの地域空間における環境計画のめざすべき方向、主体間の連携や合意形成等のあり方について考察する。</p>					
科目名	国際開発	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	雨森孝悦		
<p>この科目は、開発途上国における貧困緩和、環境保全、平和構築などを通じて、開発の主人公たる一人ひとりの人間の生活を豊かで安全なものにし、能力の向上が図られるような開発のあり方について学習するのが目的である。一言でいえば、途上国における社会開発の概論である。</p>					
科目名	環境論	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	斎藤千宏		
<p>今世紀半ば（2050年代）には地球上から食料不足や飢餓といった問題は解決するだろうとされている。他方で、今世紀末になっても解決が困難とされるのが民族対立であり、またジェンダーの問題、そして温暖化に代表される地球レベルの環境問題である。今日を生きる我々にとって基本中の基本の学習課題が「環境問題」であるといつて過言ではなからう。本科目では、入門レベルとして、環境の身近なテーマから地球規模の課題まで幅広く学んでいく。</p>					
科目名	国際福祉開発	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	斎藤千宏		
<p>人々の福祉が高まるためには、政府行政、市場制度、地域社会の住民力、NGO/NPOなどの市民力が効果的に影響しあうことが必要であるとの視点に立ち、途上国において女性、教育、保健医療、障害者などの分野でどのような試みがなされているのかを、多くのゲストによる講義を通して学ぶ。</p>					
科目名	福祉社会開発の支援ワーク	単位数	1単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	吉村輝彦		
<p>「福祉社会開発」の支援ワーカーは、地域社会に働きかけ、新たな福祉プログラムが開発される方向へ地域社会の関係変容を促す「コミュニティ変化の触媒役」(change agents)である。専門職として確立されずに多様な立場の人々に実質的に担われているとはいえ、この役割を果たすには、やはり固有のスキルが必要である。しかしその方法論が確立しているとはいえない。この科目では、既存のソーシャルワークの到達点と限界を踏まえ、新たな方向性へのキーワードを広義の「まちづくり」ととらえる。そして現場の生きた素材を基に、さまざまな既存の専門職がどのような発想とスキルによって「地域」にアプローチしたかを、受講者に考えさせる。いくつかのロールモデルに関する議論を通じて、受講者自身の主体形成を促すのが目的である。</p>					

【専門科目：医療・福祉マネジメント科目群】

科目名	福祉社会システム論	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	訓覇法子		
<p>講義の目的と目標は二つある。まずは、①世界先進国における社会政策の国別による分類（モデル）を軸にして、国際比較研究的視点から日本の福祉社会システムを社会史的に考察するとともに、方法論的に分析する。二つ目は、②高齢者人口の増加により、世界の先進国が高齢者社会に直面する現在、福祉国家・社会システム分析において介護国家・介護社会というあらたな概念が必要とされるが、介護社会としての日本の社会保障、福祉社会システムの現状分析を試み、国際比較研究的視点から有意義と思われる概念や理論の考察を行う。同時に、国際比較に必要な条件と手法を習得する。</p>					
科目名	医療政策論	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	李 忻		
<p>日本の医療制度は超高齢社会を迎えて、大きな転換期にある。「いつでも、どこでも、誰でもが安心して医療をうけられる」という目標の実現が、高齢化と低成長経済の下で困難となっているからである。医療サービス自体もかつての感染症時代から成人病・生活習慣病へと推移する中で、公平と効率の観点から医療制度に関わる「人」「物」「金」「情報」のすべてにおいて、その改革が迫られている。臓器移植や未承認新薬等に象徴される高度先進医療への大きな期待とともに、高齢者の長期ケアのための医療と福祉を接合した介護保険制度の創設と普及など、患者の自己決定やQOL（生活の質）の向上などの新しい動きをふまえて、医療政策のあり方は国民の健康の維持と増進に大きく影響している。本講義では、医療政策の展開と今後の課題・方向について学んでいく。</p>					
科目名	医療経済学	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	大内講一		
<p>1980年代以降、医療保険財政の厳しさを理由に患者負担が拡大されてきた。その一方で医療を成長戦略の中心に据え、保険適用外の自由診療を拡大しようとする動きが加速している。本講では、医療サービスが国民皆保険体制のもとで「効率的」かつ「公正」に提供されるための諸条件を考察する。</p>					
科目名	医療福祉経営論	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	中島明彦		
<p>医療福祉施設の経営は企業の経営理論をそのまま当てはめようとしても困難である。その理由は医療福祉サービスの持つ専門性や公共性という特性、サービスを提供する専門職の自律性、組織が専門職組織であること、事業が制度や政策に大きく依存することなどがあげられる。本講では、これらを踏まえて医療福祉経営の基本的視座を提供しようとする。</p>					
科目名	医療・福祉サービス論	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	近藤克則		
<p>本講義では、医療福祉サービスのあり方やその質を高める方法、それらを考える上で必要な基礎知識を学ぶ。健康に関連するQOL（Quality Of Life、生活・人生の質）や、国際生活機能分類（ICF）、ケアマネジメント、チームマネジメント、福祉事業者、政策レベルまで取り上げる。これらすべてにおいてマネジメントの考え方が有用であること、一方で医療福祉における特異性を学ぶ。</p>					
科目名	非営利マーケティング論	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	井上崇通		
<p>非営利マーケティングとは、主として非営利組織に一般企業のマーケティングの戦略および手法の視点を取り入れ、各非営利組織独自のマネジメント活動に役立てることを意図するものである。しかし、非営利組織は一般企業とは当然異なるものであり、非営利組織のなかでもその特性などによりマーケティングの戦略および手法の取り扱いは異なる。特に、講義では、そうした点に鑑み、各非営利組織の分類から始め、各々に適するマーケティングの戦略および手法、非営利組織を巡る動向を論じていく。</p>					
科目名	社会福祉法人会計	単位数	4単位	科目形態	テキスト・オンデマンド併修科目
		担当教員	新谷司		
<p>措置制度から介護保険制度へ制度変更された2000年度に、全ての社会福祉法人に原則的に適用される会計基準として、(旧)社会福祉法人会計基準が制定されている。しかし、社会福祉法人の特定の事業に対しては、同基準以外に別個に会計の指針や準則が制定されたため、社会福祉法人に適用される会計の規定が複数存在する状況となった。この状況を改善する会計基準の統一化を目指し、社会福祉法人会計基準が、2011年に改訂され、2012年度から同会計基準の適用が可能となっている。同会計基準の形式等を一部変更し、2016年3月に省令化された会計基準が、現行の社会福祉法人会計基準である。本講義ではこの社会福祉法人会計基準に基づく具体的な簿記処理から同会計基準の基本的思考や特徴までを説明する。</p>					
科目名	社会福祉援助技術論Ⅰ	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	明星智美、片岡志保		
<p>ソーシャルワーク専門職に求められる、ソーシャルワークの価値・知識・技術を学ぶ「社会福祉援助技術論（Ⅰ～Ⅲ）」のなかでも、とくにソーシャルワークの概念や実践を支える理念、ソーシャルワークに関わる専門職の役割を学ぶ科目である。ソーシャルワークの歴史や専門職倫理、専門職制度等、今日のソーシャルワークの成り立ちと、新しい総合的かつ包括的な援助の全体像を学び、より専門的なソーシャルワークの技術論への橋渡しとする。</p>					
科目名	社会福祉援助技術論Ⅱ	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	安藤健一、末永和也		
<p>相談援助実践は、さまざまな理論やモデル、アプローチに裏付けされた実践である。本講義では、相談援助における人と環境との交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて理解する。また、相談援助の過程と関係する知識と技術について理解する。</p>					

科目名	社会福祉援助技術論Ⅲ	社	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	鷲野明美、佐脇幸恵		
<p>ソーシャルワーカーが対応する生活課題は、近年ますます多様化・深刻化しており、高度な実践力が求められるようになってきている。対人援助の専門職になりゆくためには、ソーシャルワークの価値を基盤に、理論的な裏づけのある技術を身につけ、実践できることが求められる。そこで、本科目では、相談援助の理論と方法の集大成として、ソーシャルワークの価値・知識・技術と、具体的な実践場面を関連づけながら理解することを目的とする。</p>						
科目名	地域福祉論	社精	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	山本克彦、大林由美子		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む）について理解する。</li> <li>・地域福祉の主体と対象について理解する。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。</li> <li>・地域福祉におけるネットワーク（多職種・多機関との連携を含む）の意義と方法及びその実際について理解する。</li> <li>・地域福祉の推進方法（ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。</li> </ul>						
科目名	福祉行財政と福祉計画	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	田嶋香苗		
<p>行政の骨格、法制度、行政組織の観点から福祉行財政の実施体制や実際を学ぶとともに、今日の社会福祉の中で重要な手法となっている福祉計画が登場した背景やその考え方、社会福祉における計画の意味を理解し、計画への社会福祉専門職の参加の意義を考える。</p>						
科目名	福祉経営論	社	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	綿祐二		
<p>福祉サービスを提供する組織の経営とは、ケアなどのサービス提供を通じ利用者や家族、地域社会へ貢献する働きである。同時に組織で働く人々を仕事の中で活かし、成長させる営みでもある。福祉事業体の経営に関し、基礎的な内容と、実践的な経営管理（マネジメント）の在り方を学ぶことが本講義の目的である。</p>						
科目名	社会保障論	社精	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	李 忻		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。</li> <li>・社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。</li> <li>・社会保険制度の体系と概要について理解する。 ・年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。</li> <li>・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。</li> </ul>						
科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	社	単位数	4単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	本間萌		
<p>超高齢社会における諸課題及び高齢者に対する支援について多面的・多角的に検討する。また、高齢者に対する直接的な支援の理解にとどまらず、地域福祉の視点や社会開発までを意識した、超高齢社会で求められるソーシャルワーク実践についての理解を深める。</p>						
科目名	障害者福祉論	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	綿祐二、川口真実		
<p>本講義は、障害者に対する支援をミクロ、メゾ、マクロの視点でとらえ、障害者施策、支援、態度、方向性について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、障害者福祉現場における課題や人材養成に関する講義を行う。</li> <li>・障害者福祉施設で相談援助業務に従事した経験を持つ教員が、障害者福祉に関する講義を行う。</li> </ul>						
科目名	児童福祉論	社	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	安藤健一		
<p>児童や家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢や福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力等を含む）について理解する。また、児童福祉法を中心として児童・家庭福祉制度の発展過程を理解し、支援に必要な他の制度についても理解する。</p>						
科目名	公的扶助論	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	明星智美		
<p>日本国憲法が規定する人が人たるにふさわしい生活を送る権利を守る最後のセーフティネットが公的扶助制度である。社会福祉の歴史における貧困や低所得の概念、今日の貧困・低所得者を取り巻く情勢をふまえ、生活保護法および関連諸制度を通じて、人としての権利と低所得者の自立支援における専門職の役割を学ぶ。多様な貧困観、自立観、援助観があるなかで、ソーシャルワーク専門職にふさわしい貧困観、自立観、援助観の涵養をめざす。</p>						
科目名	保健医療サービス	社精	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	神林ミユキ、上山崎悦代		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。</li> <li>・保健医療サービスにおける専門職の役割と現状、他（多）職種との連携・協働について理解する。</li> </ul>						
科目名	就労支援サービス	社	単位数	1単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	藤森克彦		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。</li> <li>・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。</li> <li>・就労支援分野との連携について理解する。</li> </ul>						



科目名	権利擁護と成年後見 <b>社精</b>	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	鷺野林平		
<p>認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等の判断能力が不十分な方々の権利擁護を考えるにあたり、日本国憲法の下に存在する様々な法律の関わりがあることを知り、また、成年後見制度、虐待防止法等の権利擁護の法制度が複合的な支援システムとして位置づけられていることを明らかにしていく。さらには、関係機関の役割、具体的な事例を通して、権利擁護の現状と課題について理解する。</p>					
科目名	更生保護 <b>社</b>	単位数	1単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	木村隆夫		
<p>社会における犯罪・非行を防止し、行った人の更生支援を実施して再犯・再非行を防止することは社会の重要な課題である。その課題の実現のためには、更生保護制度が有効に展開されることが鍵である。まず、更生保護制度についての理解を高めることを目的として、本授業は下記の事項について行う。</p> <p>①相談援助活動において必要となる更生保護制度について。  ②刑事司法・少年司法分野での、他機関等との連携のあり方について。  ③犯罪や非行を行った人の、更生支援のあり方について。  ④医療観察制度について。  ⑤更生保護制度を支える組織、団体、専門職およびボランティアの役割について。</p>					
科目名	認知症の医療とケア	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	中島民恵子		
<p>認知症の人への適切な支援を行っていくためには、疾患別ステージ別の症状や特徴を理解することが大切である。アルツハイマー型認知症では、直近のことを忘れ、時間・場所・人があいまいになることによる生活上の困難が起こる傾向、レビー型小体認知症では幻視や歩行障害などによって生活上の困難が起こる傾向がある。共通した症状もあるが、疾患ごとに症状の特徴が異なる。一方で症状にばかり焦点をあててしまうと、認知症という枠にその人を当てはめて見てしまい、その人の本来の姿や力を見落としてしまう可能性もある。本講義では、認知症の医療とケアの基礎的知識を理解し、認知症の人、本人の尊厳を重視するケアの実現に向けた学びを深める。</p>					
科目名	ヒューマンケアのための多職種連携	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	藤井博之		
<p>多職種連携および多職種連携教育／学習について、「ふくしの総合大学」としての本学のコンセプトに則し学ぶ。  総論的には、ヒューマンケアについて福祉経営以外を学ぶ人々との共通理解を育むとともに、多職種連携と地域連携の基礎的理念、考え方、知識等を、社会保障や地域包括ケアの概念を含めて伝える。各論としては、暮らしのさまざまな場面を切り口に、そこに関わる多様な職種や地域主体がいかに連携するかを検討する。ヒューマンケアと人々が連携・連帯することについて、外部講師のお話もうかがい、幅広く学ぶ。全体を通じて、多職種連携の必要性について認識するとともに、その困難性や課題などについて問題意識の醸成を図る。</p>					

## 【専門科目：ヘルスケア・ライフマネジメント科目群】

科目名	福祉文化論	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	小惊喜一郎		
<p>社会福祉の分野で、文化という言葉の定義は不十分である。しかしながら、文化を生活としてとらえるならば、介護保険法によって医療と福祉が同じ法体系の中に把握されようとしているとき、我が国における福祉文化の今をどう読み解くかの課題は大きい。ここでは歴史学を初めとして民俗学などさまざまな人文科学分野の成果を取り入れながら、社会福祉の分野における文化とは何か考えていく。また、近年施設の生活の中で、利用者と若い職員のコミュニケーションのギャップが生まれてきている。このような現状の中に、福祉文化を介在させることで、両者のギャップの解消を図ることも併せて意図している。</p>					
科目名	死生学	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	片山善博		
<p>『生と死について学ぶ—死生学』  自らの死を経験してきたものはいない。しかし誰もが確実に死と直面することになる。それは、他人の死、かけがえないものの死、死に逝く自分というかたちで。先人たちはそうした死と直面し、そこからさまざまな思想や世界観を生み出してきた。死がタブー化されたといわれる現代社会において、彼らの足跡をたどりながら、同時に、新しい死生観を考えていくことは、必要なことであり、有意義なことであろう。本講義では、死生学の歴史と現状、さまざまな死生観とその変遷、延命・生殖・安楽死などをめぐる生命倫理の考え方を取り上げて、死について学ぶことの重要性とその積極的な意義を示したい。「死を学ぶこと」は「生きることを学ぶこと」であるという立場から、人間としての生きることの〈価値〉について考えたい。</p>					
科目名	生涯学習論	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	中川晴夫		
<p>生涯学習の本質は2つの側面を持っている。学習機会としては「生涯にわたる学習」(生涯継続学習)であり、学習目的としては「生涯のための学習」(生涯設計学習)である、という観点を重視する。その場合、生涯継続学習の基調は、人びとが生涯という時間を共有することの重要性、つまり世代共生の意義を理解することであり、生涯設計学習の基調は、人びとが生涯という空間を共有することの重要性、つまり地域共創の意義を理解することである。以上、世代共生と地域共創を中心に生涯学習の本質を理解することをねらいとする。</p>					
科目名	高齢者の心理	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	山口智子		
<p>急速な高齢化が進み、高齢者の心理への関心が高まっている。また、高齢者支援において、高齢者個々人のニーズにこたえるためには、支援が必要な問題の理解だけでなく、高齢者の性格、言動、経歴、家族関係などを含めた個人理解が必要である。この科目では、①高齢者の心理を理解する視点を学び、②加齢によるさまざまな心理機能の変化を理解すること、③老年期におこりやすい心理の問題を理解すること、④高齢者に対する心理的援助方法を考えることを目標とする。</p>					

科目名	スポーツマネジメント	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	荒深裕規		
<p>スポーツの現状について、国の政策から個人のスポーツ参加や支える組織団体などのスポーツを取り巻く環境、さらに心身の状況に応じたスポーツとのかかわり方などまで幅広く学ぶ。また、スポーツの健康への効果や海外のスポーツ振興について様々なデータや実際の取り組み方などからも学ぶ。</p> <p>本講座を学ぶことにより、受講生のこれからのスポーツへの視点や関わり方が広がることを目標とする。</p>					
科目名	福祉情報技術	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	巖淵守		
<p>アシスティブテクノロジー（Assistive Technology：以下、AT）は、日本では「福祉用具」「支援技術」といわれる分野であり、「障害のある人の生活を助けるテクノロジー」を意味する。車いす、自助具、コミュニケーション機器等あらゆる生活場面で利用される福祉用具や住宅・まちづくり等の環境整備は、ATの役割でもあり、最近ではパソコンやスマートフォンなど、身の回りにおけるテクノロジーのATとしての利用も一般化しつつある。この講義では実際の相談導入・利用事例の概説を含め、特に電子・情報技術をベースとしたATの概要を学ぶ。</p>					
科目名	リハビリテーション医学	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	近藤克則		
<p>リハビリテーション（以下リハ）医学には、従来の（疾患を対象とし、治癒を目的とした）医学とは異なり、障害をも対象とし、「全人間的復権」（上田）を目的としているという特徴がある。現場での体験に乏しい学生諸君にも、具体的イメージが湧きやすいよう、総論と各論の両面から、具体的な症例や実践例を、ビデオなども用いて紹介する。</p>					
科目名	健康格差社会	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	近藤克則		
<p>本講義では、「健康長寿」に影響する社会的要因の解明に取り組む「社会疫学（social epidemiology）」が明らかにしてきたことを元に、私たちの健康・幸福（well-being）がどのような要因によって決まるのかを考える。日本にどの程度の「健康格差」が見られるのか、なぜ健康格差が生まれるのか、その背景や原因、健康によい環境をつくる「ゼロ次予防」、そのための方法などについて考える。</p>					
科目名	産業組織心理学	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	山口智子		
<p>超高齢社会となった現代、「働く」とはどのような営みであろうか。長寿化、価値観の多様化、情報化、グローバル化などが進むなかで、働く人びとをめぐって過重なストレス、うつ、休職、過労死などさまざまな問題が生じている。また、高齢化に伴い、介護、看護のニーズが増大しているが、介護職や看護職として働く人びとの心身の不調や人材不足が社会問題となっている。さらに、対人援助職は、組織の中で、メンタルヘルス対策の企画立案や推進の役割を担うことが求められることもある。</p> <p>そこで、本講義では、特に、対人援助職の領域に焦点を当てて、働く人びとのストレス、キャリア、メンタルヘルス不調、メンタルヘルス対策などについて考えたい。</p>					
科目名	シルバーファイナンス	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	川床憲一		
<p>シルバーファイナンスという言葉は聞きなれない単語であろう。直訳すると、「歳寄りの財政」とでもなるが、ここでは「高齢者に必要な金融の知識やそれに関連する税金、医療、保険、年金などの知識をトータルで身につける科目」と規定したい。</p> <p>「人生は有料道路」という言葉もあるが、生きている限り散財は避けられない。如何に上手に倹約するかも課題の一つである。倹約と吝嗇は違う。本科目で堂々と、そして楽しく倹約することを学んでほしい。</p>					
科目名	発達精神病理学	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	牧真吉		
<p>発達障害という言葉が、世の中に広がっている。そこには、関係性の発達という面での理解がこれまでにできてこなかった。関係の発達を理解して、その発達がゆっくり育ってくる子どもたちとして発達障害を考えることができる。発達とはすべての子どもが同じように育つことはありえないことであり、バラツキがある。そのバラツキとしてゆっくり育ってきていると考えてみると、かなりの子どもたちのことを理解することができる。そして理解することは、対応する方法を考えることができるように導く。原因を特定することはできないが、発達がゆっくりな子どもたちにつきあうという発想を持って臨めるようにする。</p>					
科目名	精神障害者支援論	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	青木聖久		
<p>本講義では、精神障害者が社会において、よりよく暮らすにあたって、その支援のあり方を学ぶものである。ちなみに、2011年の障害者基本法の改正において、発達障害者が精神障害者の中に含まれることになった。そのことから、本科目で精神障害者と言う場合、発達障害者も含むものである。まず、精神障害者がいかなる社会的支援を活用することによって、等身大の暮らしが実現するかについて考える。とはいえ、「精神障害者」という用語そのものが多様な解釈がなされることから、障害による特徴や課題を提示する。また、精神障害の有無に限らず、人が生き生きと暮らすにあたって、「働く」ということが重要となるため、その関係を示しつつ、一方で、就労支援等についても実践的に迫る。さらに、社会保障制度、とりわけ経済的支援について、生活支援からめつつ、具体の諸制度を紹介しながら、精神障害者の暮らしについて検討する。そして、精神障害者の「働く」を含めた暮らしの実際や経済的支援等を通して、生活支援とは何か、を明らかにすることが本講義の目的である。</p> <p>・精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</p>					
科目名	精神医学	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
		担当教員	堀末来		
<p>精神保健福祉士の活動分野の一つが精神医療分野である。そして、精神医療とは精神医学の社会的適応として出発しつつ、現在では多様な専門性を持ったさまざまな職種が共働する場となっている。</p> <p>そのような精神医療の現場において、福祉という土壌から生まれてきた精神保健福祉士の専門性をしっかり維持しつつ、他の職種と共働するための共通の基礎知識が精神医学であると言える。</p> <p>多様な職種がしっかりしたチームワークを発揮し、より良い精神医療を実践できるために、共通知識としての精神医学をしっかりと身につけてもらいたい。</p>					

科目名	精神保健学	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	足立孝子		
<p>社会構造の急速な変化等による精神保健の課題や対象範囲の拡大を踏まえ、基礎知識だけでなく、対策や問題点、さらに精神保健福祉士の役割について理解する。精神保健を維持・増進するために機能している、医療や行政、福祉施設等の各機関や専門職間の連携、ネットワークの構築について学ぶ。さらに、精神障害のある人が地域で安心して自立した生活を送る（ウェルビーイング）を促進するために、精神保健福祉士が担うべき役割について学習する。</p>						
科目名	精神保健福祉相談援助の基盤	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	行實志都子		
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。</li> <li>社会福祉士の役割と意義について理解する。・相談援助の概念と範囲について理解する。</li> <li>相談援助の理念について理解する。・精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。</li> <li>精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解する。</li> <li>精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。</li> <li>精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。</li> </ul>						
科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	田中和彦		
<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健医療福祉の特性（精神科医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。</li> <li>精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解し、精神科リハビリテーションの知識、技術及び活用の方法を理解する。</li> <li>精神保健福祉士として必要な相談援助の基礎理論と技術を理解する。</li> </ul>						
科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	田中和彦		
<p>精神障害者への支援を行う上で、精神保健福祉士がどのような援助理論をもとに支援を行っているかを理解するとともに、その実際の援助の展開について学ぶ。また対象者を生活者として捉える視点を醸成し、その生活を支援していくための援助技術について理解を深める。</p>						
科目名	精神保健福祉に関する制度とサービス	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	青木聖久		
<p>本科目では、精神障害者を取り巻く制度やサービス、及び、精神保健福祉法に至るまでの変遷について理解することを目指す。また、精神保健福祉に関する主要な法律と施策の概要や、精神保健福祉に関する社会保障制度、さらには、フォーマル・インフォーマルな社会資源について学ぶ。加えて、更生保護制度・医療観察法の概要と実際、各々の制度と精神保健福祉との関連について理解できるようにする。そして、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査について学ぶ等、多角的に精神保健福祉に関する制度とサービスについて理解することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</li> </ul>						
科目名	精神障害者の生活支援システム	精	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	青木聖久		
<p>本科目では、精神障害者の概念を理解したうえで、精神障害者の暮らしの実際、精神障害者の生活と人権、そして、精神障害者の生活支援システムについて学ぶものである。加えて、精神障害者の居住支援、雇用・就業支援、行政における相談援助について理解を深めることを目指す。また、支援対象者には、精神障害者の家族も含めるものとする。さらに、精神障害者支援において重要となる、人々のプロセスや社会的背景にも着目しながら、専門職のあり方、当たり前が人が社会で暮らすとは、について理解することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</li> </ul>						
科目名	ファイナンシャルプランニング総論	A	単位数	1単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	安藤朋子		
<p>FP（ファイナンシャルプランニング）とは何か、FPの歴史と現状や社会的役割、手法と知識、諸領域、コンプライアンス等を学ぶ。また、ファイナンシャルプランナーの業務内容や進路、具体的なスキルの身に付け方についても学習する。FPの技術を活かせる業界やそれを取り巻く環境を知ることにより、ファイナンシャルプランナーとしてのキャリアイメージを明確にする。</p>						
科目名	金融資産運用設計	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	栗本修己		
<p>個人のライフプランを実現するためには、財政上の裏づけとして資金が必要になる。必要な資金は具体的な金融商品で管理・運用する必要が生じるが、そのためには商品を選択するための周辺知識が必須となる。そこで、経済・金融動向の見方、預貯金、金融類似商品、投資信託、債券、株式、デリバティブなどの商品知識とともに、預金保険制度や金融商品販売法などのセーフティネット、少額投資非課税投資（NISA）、ポートフォリオの組み方を学び、金融資産の管理運用法を習得する。</p>						
科目名	不動産運用設計	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	安藤朋子		
<p>不動産は、生活の本拠として、あるいは資産として、ライフプラン上の重要な位置を占める。この科目では、不動産について、売買、貸借、所有、活用、投資など様々な場面で必要となる広範囲な知識を学習する。具体的には全体を3つの領域に分け、まず不動産の見方と不動産に関わる様々な法律の規定を、次いで不動産に関わる税金の種類と内容、不動産投資・有効活用の手法を学び、生活者が不動産と上手につきあっていくための実用知識を習得する。</p>						

科目名	ライフプランニングと資金計画	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	加藤美晴		
<p>ファイナンシャルプランニングの中心的な科目である。学習領域は大きくライフプランニングとリタイアメントプランニングに分かれる。前者では、ライフプランニングの考え方、家計のキャッシュフロー分析手法に始まり、ライフプラン上の重要テーマである住宅資金設計、教育資金設計等について学ぶ。後者では、労働保険、医療保険、公的年金という各種の社会保障制度の仕組みを理解し、老後の資金設計の考え方を習得する。</p>						
科目名	リスク管理と保険	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	加藤恵子		
<p>現代社会におけるリスクには様々なものがある。ファイナンシャルプランニングにおいては、それらのリスクに対して保険という手段を用いてリスクを移転するという保障・補償設計が必要となる。この科目では、その観点から、リスクマネジメントの考え方、保険制度、生命保険と損害保険の仕組み、それぞれの分野の具体的な商品の種類と内容を学び、保険を活用したリスクマネジメントの手法を習得する。</p>						
科目名	タックスプランニング	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	角田圭子		
<p>ファイナンシャルプランニングにとって、可処分所得を把握する上で税の知識は欠かすことができない。初めにわが国の税制を体系的に理解し、なかでも個人のライフプランニングに欠かせない所得税を中心に、個人住民税、個人事業税、法人税、法人住民税、法人事業税、消費税等を学ぶ。特に所得税についての知識は重要であるため、その仕組みから、税額計算、申告納付までを体系的に学び、最終的には具体的な税額計算ができるようになるまで理解を深める。</p>						
科目名	相続・事業承継設計	A	単位数	2単位	科目形態	テキスト科目
			担当教員	佐藤正明		
<p>ライフプランの終着点である死亡時の財産処分と、それに伴う税務上の取り扱いを学習する。相続はすべての人に共通のライフイベントであるが、知識不足からトラブルになることが少なくない。そこで、まず相続人の範囲と相続分、相続を放棄する場合の手続き、遺言の作成方法など、民法の知識を学習する。また、遺産額が一定規模以上になると相続税が課税され、相続税対策が重要なテーマとなるため、相続税の基本的な仕組み、節税対策の考え方をあわせて学習する。</p>						
科目名	ファイナンシャルプラン作成	A	単位数	1単位	科目形態	オンデマンド科目
			担当教員	安藤朋子		
<p>FP（ファイナンシャルプランニング）実務において「商品」となる提案書（プラン）について、その意義と位置付けを理解し、ライフイベント表・キャッシュフロー表・バランスシートの作成、保険の見直しや資産運用の提案といった提案書の内容と作成手順を学習する。最終的には、与えられた課題に基づき、実際に提案書を作成し、提案書作成技術の習得を目指す。</p>						

## (2) スクーリング科目

### 【基礎科目】

科目名	福祉経営序論	必	単位数	1単位	科目形態	スクーリング科目
			担当教員	綿祐二ほか		
<p>通信教育という形態で学習を進めるうえで最も大きな課題は、孤独な環境のなかで学習の動機づけを長期にわたって維持することである。この困難を乗り越えるうえで、先の見通しをもつこと、学友や教員の励ましを得ることが大きな力となることがわかっている。このスクーリングはそのためのものである。</p>						
科目名	フォローアップセッションⅠ（効果的な学び）		単位数	1単位	科目形態	スクーリング科目
			担当教員	学習指導教員		
<p>学習を進めるうえでわからないことを解決し、「どうやって学べばよいか」といった疑問を学友と学習指導教員と一緒に考える。学習のモチベーションアップを一緒に図ろう。 ※春期科目修了試験後の7月に開催</p>						
科目名	フォローアップセッションⅡ（実践的な学び）		単位数	1単位	科目形態	スクーリング科目
			担当教員	学習指導教員		
<p>大学での効果的な学びの方法を学んだ「フォローアップセッションⅠ」に続き、本科目では大学での学びを社会で実践的に活かすための学習方法を理解し、その習得をめざす。また、自分がそれを実践するための第一歩として、具体的に何ができるかを考える。 ※夏期科目修了試験後の9月に開催。「フォローアップセッションⅠ」履修の如何にかかわらず履修可。</p>						

科目名	障害者スポーツ研究	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		学年配当	3年	担当教員	荒賀博志
<p>障害者にとってスポーツとは何かを考える            障害がある人こそスポーツを行うべきではないか。スポーツは、競技性だけではなく、気軽に行い、継続していくことで健康維持・増進、体力の向上につながるものである。その他にも人とつながるためのコミュニケーション手段としても非常に効果的である。障害に合わせてルールを変更したり、方法を工夫することにより、いろいろなスポーツを行うことができる。このことから障害がある人も、自分は「できる!」という自信を持つこともできると考える。本科目では、障害がある人がスポーツを通じて「生きがい」を感じ、積極的に社会参加を行えるきっかけ作りを行うことが、障害者スポーツ指導員の役割であることを理解する。</p> <p>できることを見えていますか            障害があると、どうしてもできないところを見てしまうのでは…。障害がある人がスポーツを行うときは、「できるところ」を引き出していく考え方が大切である。スポーツを通じて、障害がある人の可能性を引き出す「できるところ」を見つける目を養うことが、本科目の目的である。</p>					

## 【専門科目】

科目名	論文・レポート作成基礎Ⅰ	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	新谷司		
<p>◎研究計画書の書き方を学び、自己の問題意識または課題を明確にする準備作業を学ぶ。            論文・レポート等を作成する場合の計画書に相当する「研究計画書」をいかなるポイントに注意して、どのように作成すべきか、について学び、合わせて研究に対する自己の問題意識または課題を明確にする準備作業を学ぶ。</p> <p>◎問題意識または課題設定に必要な不可欠な先行研究の検索及び読み方や、論証方法または調査方法として利用される量的調査・質的調査の一端を学ぶ。            自己の問題意識または課題を明確にするためには、それに関連する先行研究の読み込みが必要である。どのようにして先行研究を検索して入手するのか、いかにして先行研究を読み込むのか、について学ぶ。研究における論証方法、または調査方法として利用される量的研究・質的研究の基礎を学ぶ。</p> <p>◎論理的な文書の読み方・書き方を学ぶ。            論理的な文書には、正しい文法に基づいていること、適切な表現を利用すること、主張と根拠を明確にしていること、等が必要である。同文書の読み方・書き方を学ぶ。</p>					

科目名	論文・レポート作成基礎Ⅱ	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	新谷司		
<p>◎論文・レポート等の作成方法について学ぶ。            論文・レポート等をいかなるポイントに注意して、どのように作成すべきか、について学ぶ。「論文・レポート作成基礎Ⅰ」で学んだ内容を復習し、どのようにして論文・レポート等を作成するのかさらに詳しく学び、また調査方法としての質的研究と量的研究についても、さらに詳しく学ぶ。</p> <p>◎「論文・レポート作成基礎Ⅱ」用の「研究計画書」を再検討して、「研究論文指導」用の「研究計画書」作成の準備を進める。            「論文・レポート作成基礎Ⅱ」の履修者は、同科目用の「研究計画書」をスクーリング前の所定の期日までに作成する。担当教員は同「研究計画書」に対してコメントを提供する。履修者は、教員のコメントとスクーリング当日の学習に基づいて、「研究論文指導」用の「研究計画書」の作成の準備を進める。</p>					

科目名	研究論文指導	単位数	4単位	科目形態	スクーリング科目
		学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<p>本科目は何らかの問題意識をもち、自らテーマを定めて、それについて研究する学生を対象とした科目である。各担当教員のもとで、テーマに応じた適切な方法論、論文構成や内容について個別にアドバイスを受けながら、最終的に論文を作成する。履修にあたっては、希望する指導教員を指定し、小論文等の課題選考(面接含む)に合格し、一定数以上の単位が修得済みであることが条件となる。</p>					

## 【専門科目：ビジネスマネジメント科目群】

科目名	日本企業の経営・会計	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	新谷司		
<p>企業の会計の基礎知識を学ぶ            企業の会計や経営分析とは何か。特に貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書とは何かを説明する。加えて日本の大企業全体の会計の概要について説明する。</p> <p>日本の大企業の実例から、その経営・会計と労働・管理の特徴を理解する            最初に日本の大企業全体の現状を説明し、実際に経営分析の方法により分析の演習を行う。そして大企業全体の経営と会計の特徴を説明する。次に日本の大企業における会計方法の利用状況とその方法の特徴を説明し、新聞記事等を利用して大企業の会計の特徴を説明する。最後に日本の大企業における労働現場の実態を説明し、労働者の労働と管理の特徴を説明する。</p>					

【専門科目：コミュニティマネジメント・国際協力科目群】

科目名	地域再生	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	雨森孝悦		
<p>身近なコミュニティを含む地域の衰退は今や中山間部など条件不利地に限られない。高齢化の進展とともに、大都市部でも見られる。衰退は人口的、構造的な原因をもつため、今後さらに大きな問題となり、福祉社会の脅威となる。そのことを冷静に受け止め、理解するとともに、地域再生について具体的に考えるのが目的である。</p>					
科目名	国際開発と貧困問題	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	斎藤千宏		
<p>グローバリゼーションや規制緩和を背景として、世界では市場を通じた経済活動が主軸になり、極度の貧困状態にある人々は減少している。ビジネスを通じて貧困から抜け出せるようにしようという動きもある。他方で、経済成長が進み始めた新興国の内部での格差はむしろ拡大している。健康面に目を転じると、結核などの感染症をはじめとする疾病予防においても大きな課題が山積している。このスクーリングでは、共治（ガバナンス）に視座を置きながら、それら途上国の政府と市民社会組織とが相互作用しながら、さらに国際社会の諸機関も関わりながら、いかにしてこうした諸課題の解決にむけて取り組んでいるのかをインドを中心に学んでいくことにする。</p>					

【専門科目：医療・福祉マネジメント科目群】

科目名	社会福祉政策国際比較	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	藤森克彦		
<p>本講義では、社会（福祉）政策一とりわけ社会保障制度一の国際比較を通じて、日本の生活保障の特徴と限界を理解し、今後の支え合いのあり方を考える。具体的には、貧困問題を取り上げる。現在、日本の貧困率は、主要先進国の中でアメリカに次いで高い水準にある。なぜ日本の貧困率は高いのか、を考える。</p> <p>上記の問題意識をベースに、社会（福祉）政策について、日本とスウェーデンの2か国間で比較する。スウェーデンの貧困率は、日本の2分の1程度である。なぜスウェーデンの貧困率は低いのか。福祉先進国とよばれるスウェーデンの社会（福祉）政策の根本にある考え方やその内容、また、なぜスウェーデン国民は高福祉・高負担を支持するのかを理解し、日本との差異を考える。その上で、日本の社会（福祉）政策の特徴と限界を考察し、今後の支え合いのあり方を考える。</p>					
科目名	社会福祉と権利擁護	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	明星智美		
<p>社会福祉の諸サービスを必要とする人々の生活実態等から、社会的排除や権利侵害の状況の理解を図り、社会福祉領域における権利擁護実践が必要とされる背景を明らかにする。また、成年後見制度や虐待防止法など、権利擁護実践のための法制度の枠組みを整理したうえで、地域における権利擁護実践のイメージの具体化を図る。グループ討議等により、権利擁護実践における専門職の役割とは何かについて、各人の考えを整理し、言語化できることをめざす。</p>					
科目名	社会福祉法人のマネジメントと会計	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	新谷司		
<p><b>社会福祉法人の会計の基礎知識を学ぶ</b> 社会福祉法人の会計や経営分析とは何か。特に貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書とは何かを説明する。加えて同計算書類を利用した経営分析の方法を説明する。</p> <p><b>社会福祉法人の実例から、そこでの経営や経営改革の特徴を理解する</b> 最初に社会福祉法人制度や社会福祉事業者の実態について説明し、介護保険制度や介護保険事業者の経営の特徴について説明する。その後、特定の社会福祉法人の経営者または管理者が、それぞれの法人の経営や経営改革の特徴を説明する。各法人の歴史的経過、事業展開の状況、理念・経営方針、短期計画・中長期計画、経営管理システム等を説明する。</p>					
科目名	医療福祉システムの理論と実践	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	李 忻		
<p><b>医療保険制度の基本的仕組みについて理解する</b> 社会保険としての医療保険制度における保険者の役割、各保険制度の財政状況、医療保険給付の内容等について学ぶ。保険者の役割、保険制度の財政状況、保険給付の内容等の視点から、各健康保険組合の現状と問題点、協会管掌健康保険制度の現状と問題点、市町村健康保険制度の現状と問題点を理解することを目標とする。</p> <p><b>実践的な視点から社会福祉援助の課題を探る</b> 高齢・障がい等により、自分の権利を自分で守れない時に、社会福祉の専門職としてどのように援助すべきか、単に施設の運営基準に従って福祉サービスを提供する、という域から脱却していなければ、良い福祉サービスの提供は決して実現できない。実践的な視点から、権利擁護・人権感覚をよく理解した福祉人材は、どのようにコンプライアンスルールに基づきながら福祉サービスを提供すべきか、について理解することを目標とする。</p>					

科目名	医療福祉制度と暮らし	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	李 忻		
<p>高齢者の医療保障の制度の仕組みについて学ぶ 加齢と医療費、生涯医療費、後期高齢者医療制度について学ぶ。後期高齢者医療制度が高齢者にとって、どのような制度であるのかについて討論する。後期高齢者医療制度と現役世代医療保険制度との関係、後期高齢者医療制度の財政的な仕組みなどを理解することを目標とする。</p> <p>福祉の総合相談を通じての社会福祉の諸制度及び福祉サービスの活用について学ぶ 福祉の総合相談は社会福祉士が中心となって、地域包括支援センターの他の専門職種をはじめ、地域の関係機関等と連携をしながら実施されている。総合相談・支援及び権利擁護の業務は、地域の高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を継続していく上で大変重要な役割を果たしている。高齢者や障がい者の日々の暮らしを支えるためには、総合相談の業務はどのように行われているのか、地域におけるネットワークの構築、虐待の現状及びその対応策、成年後見制度の活用、消費者被害の防止等について理解することを目標とする。</p>					
科目名	ソーシャルワークと専門職	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	藤森克彦、安藤健一、中島民恵子、明星智美、鷺野明美		
<p>社会福祉の基礎を学ぶ科目として、ソーシャルワーク実践の基礎的理解、ソーシャルワーク専門職に求められる実践力や職責の理解を図る。ソーシャルワーク専門職の実践イメージとその実践に対する社会的な期待をふまえ、受講生がソーシャルワークを専門職とし、社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格の取得をめざすかどうかの選択に資することを目的とする。</p>					
科目名	社会保障の制度と課題	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	李 忻		
<p>年金保険制度について学ぶ 日本の公的年金保険制度の体系、国民年金保険制度の仕組みと現状、厚生年金保険制度・共済年金保険制度の仕組みと現状、日本の公的年金保険制度の課題について理解することを目標とする。さらに、現在の社会生活において、老齢年金、障害年金を頼りに生活している人々の現状についても紹介し、年金保険制度の課題について理解を深める。</p> <p>社会保障の諸制度と日本の社会経済の変遷について学ぶ 日本は1973年に国民皆保険、皆年金を実現し、本格的に社会保障の諸制度の充実、給付対象者の範囲の拡大、給付レベルの向上などが図られ、福祉国家が実現した。医療保険制度、年金保険制度をはじめとして、どのような社会経済背景の下で、その内容の充実が図られたのか、社会保障の諸制度の充実と社会経済との関係を理解すると共に、少子高齢化及び経済のグローバル化が進んでいる今日の日本においては、どのように社会保障の諸制度の再設計を行うべきか等について理解することを目標とする。</p>					
科目名	ケアマネジメント入門	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	綿祐二		
<p>「ケアマネジメントプロセス」の段階的課題を学ぶ ケアマネジメントは、一般的に①インテーク→②アセスメント（情報収集と生活課題の分析）→③プランニング（個別介護目標の設定と計画・立案）→④サービスの実施（ケア実践）→⑤モニタリング（中間評価）→⑥サービス評価→⑦再アセスメントのプロセスを経ていく。それぞれの段階においては、それを支える理論が基盤となっている。その理論の整理を行い、介護現場におけるそれぞれのステージの課題を抽出することが学習目標である。</p> <p>介護現場におけるケア実践の理論構築を図る 実際の介護現場では、個別介護計画にそってケア実践が行われる。しかしながら、実践場面になると多くの課題が起こる。利用者主体性の原則から考えれば、フェルトニーズ（デマンド）を重視するが、専門的視点からのノーマティブニーズをどのように反映していくかが大きな課題でもある。ケア実践場面では、多くの価値観が存在する。例えば、食事面で「経口」か「経管」か、「安全」か「自由」か、「行動制限」と「拘束」の違い、尊厳あるケア実践とは。実際の介護現場で起こる価値観の違いを理解して、どのように多職種連携によるチームアプローチを実践していくかを事例を通して議論を行っていきケア実践の理論構築を図ることが最終目標である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、障害者福祉現場における課題や人材養成に関する講義を行う。</li> </ul>					
科目名	福祉現場の人材養成	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	綿祐二		
<p>「福祉専門職」は何をすべき職業か 福祉現場における支援実践は、多くの命題的理念が基盤にある。その理念・理論によって福祉専門職は成り立っている。自己の業務を振り返り、その基盤になっている理念・理論を整理して、福祉専門職の業務の意義について再確認を行う。福祉専門職の業務は多岐にわたり、客観的に業務を整理することで課題が抽出される。実際に、職員達がどこでつまづき、どこで悩んでいるのか、業務の棚卸しを行い、福祉専門職としてのキャリア形成を行っていくのが第1目標である。</p> <p>命題的理念を福祉現場で具現化し、福祉専門職の専門性の確立をおこなう 実際の福祉現場の支援の事例を通して、理念・理論と実践の乖離の現状を明確化していく。福祉現場では、多様な価値観の中でチームを組み、ひとつの目標に向かっていく。そのためにコンセンサスを持つことは非常に重要であり、しかしながら大変難しい。それぞれの専門家にはそれぞれの価値観がある。福祉現場では、その乖離を融合していくための討論を行っていくことが非常に重要である。本講義では、自分の価値観を他者の価値観とぶつけることで、議論の解決の糸口を見つけていくことを第2の目標とする。その後、職場環境の整備、チームアプローチの方法、リスクマネジメント法など具体的な方策まで言及していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、障害者福祉現場における課題や人材養成に関する講義を行う。</li> </ul>					
科目名	スクールソーシャルワークと学校現場	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	安藤健一		
<p>いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待などが教育現場で生じている問題状況や背景には、子どもの心の問題と複雑に絡み合った環境的な問題がある。いま、子どもたちと環境に働きかけ、その課題解決を図るスクールソーシャルワーカーの活躍が期待されている。本講義では、学校という生活の場で展開されるソーシャルワークの必要性と課題、そして教育の場で展開される「子どもへの支援」について考え、理解する。</p>					

科目名	地域福祉と災害ソーシャルワーク	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	山本克彦		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害について知るとともに、被災した地域における環境の変化や、多様な被害について理解する。</li> <li>●災害のフェーズを時系列に整理し、各場面での福祉支援を具体的に理解する。</li> <li>●災害時に顕在化する多様な生活課題について、ソーシャルワークの展開を基本として理解する。</li> <li>●災害時の多職種連携のあり方や、福祉施設等における事業継続（BCM・BCP）について理解する。</li> <li>●地域福祉の視点から防災・減災について学び、個人や組織としての役割を理解する。</li> </ul>					
科目名	単身世帯と社会政策	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	藤森克彦		
<p>単身世帯を切り口にして、日本社会の課題とその対策を考える。具体的には、単身世帯の増加の実態とその背景についてデータに基づいて理解する。また、単身世帯の増加には、貧困、社会的孤立、要介護時の対応といった点で課題を抱える人が増える傾向にあることを理解する。さらに、単身世帯の増加に対して求められる政策—社会保障の機能強化、地域づくり、働き続けられる社会—を考える。最後に、家族の支え合いを前提に構築されてきた日本型福祉国家が、現在岐路に立っていることを認識し、今後の方向性を考える。</p>					
科目名	認知症ケアと多職種連携	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	中島民恵子		
<p>2025年には約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になると見込まれている。認知症ケアは個別性が高く、支援の方法も多様である。今後さらに増え続けるであろう認知症の人の「その人らしい暮らしの継続」を支えるためには、専門職間における適切な連携なしでは十分に対応できなくなっている。本講義では、本人がその症状によって失いがちなその人らしさ（個性・意思・尊厳）を保ち、本人が持つ力を発揮できることを支えるために、1) 認知症の人の症状や特徴などの基本的理解を深め、2) 認知症の人を取り巻く専門職の役割や多職種で連携し支援するあり方を学ぶ。</p>					
科目名	子どもの貧困の現状と支援	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	後藤澄江		
<p>データと支援活動から子どもの貧困の現状を読み解く 子どもの貧困は大きな社会的課題である。日本の子どもの7人に1人が相対的貧困状態にあり、とくに、ひとり親世帯の子どもの相対的貧困率は先進国の中で最悪というデータもある。そのような中、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」や様々な「子供の貧困対策」が施行されるとともに、子ども食堂など全国各地での住民参加の支援活動の活発化もみられる。本科目では、各種データから日本の子どもの貧困の現状や背景を「見える化」するとともに、教育や福祉の課題や地域での支援活動の動きを把握することをめざす。</p>					
科目名	司法と福祉の連携とソーシャルワーク	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	鷲野明美		
<p>近年、罪を犯した高齢者、障害者ならびに非行少年への福祉的支援の必要性和重要性が認識され、司法と福祉の連携による支援が進められている。これに伴い、刑事司法および少年司法において、ソーシャルワーク専門職の配置が進み、新たな領域でのソーシャルワーク実践に期待が寄せられているところである。 罪を犯した人、非行少年の社会復帰を支えるには、これら司法分野のソーシャルワーカーの実践に加え、地域で活動するソーシャルワーカー、さらには、住民、保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携による支援が必要不可欠である。この講義では、刑事司法および少年司法の理念と仕組み、罪を犯した人や非行少年を支える司法と福祉の連携、ならびに、様々な立場におけるソーシャルワーク実践のあり方について学ぶことを目的とする。</p>					
科目名	福祉・介護のマネジメントとリーダーシップ	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	尾林和子		
<p>福祉・介護サービスを提供する経営主体（法人）においては、理念に基づいたマネジメントが不可欠である。施設・事業所で働く総てのものはこの法人の理念を実現するためにそれぞれの組織が何をできるかを考えねばならない。 この講義ではマネジメントの基礎とマネジメントサイクルの理解と理念に基づく経営の重要性、組織として取り組むチームワークに必要なリーダーシップとフォローアップのあり方を学び、チームビルディングに必要なコミュニケーションスキルへの理解を深める。 さらにOJTなどの人材育成研修や職場内研究活動を能動的に取り組むスキルとして「コーチング」を学び、チームワークとリーダーシップの実践的なあり方を身につけ、チームビルディングに活かす創造的プロセスを学ぶ。</p>					
科目名	認知症の人と地域包括ケア	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目(クラス制科目)
		担当教員	中島民恵子		
<p>高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるサービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築が進められている。今後さらに増え続けることが予想されている認知症の人に対して、認知症の人がたどる初期から終末期のステージに応じた地域包括ケアシステムの構築の推進は非常に重要である。本講義では、地域で認知症の人を支えるための具体的な実践方法を知り、認知症の人の特徴に応じた地域での包括的な支援体制について、共に学び考えることを目的とする。</p>					



【専門科目：ヘルスケア・ライフマネジメント科目群】

科目名	精神障害者と福祉実践Ⅰ	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	青木聖久		
<p>本科目では、統合失調症を中心にして、精神障害者のことを様々な側面から知ることを目指す。精神障害者や家族が、これまでどのようなプロセスを辿り「いま・ここに」いるのかや、いかなる社会的背景のなかで暮らしているのかについて、想像力を膨らませ、理解できるようにする。また、精神保健福祉士が、どのような魅力と可能性を有する専門職であるのかについても、第一線で活躍している者の話等を通して、理解を深める。さらに、「自分が精神保健福祉士になる・精神保健福祉士を活用する」等、様々な「自分及び自分たちができること」について考える機会とする。そして、精神障害者や家族に対する実践的な支援のあり方について学ぶことを目的とするものである。</p> <p>・精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</p>					
科目名	精神障害者と福祉実践Ⅱ	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	田中和彦		
<p>本科目は「精神障害者と福祉実践Ⅰ」の発展科目である。「精神障害者と福祉実践Ⅰ」では、精神障害者の置かれている現状と課題に対する福祉的視座からの理解、そして精神保健福祉士の実践について学んできた。本科目は、さらに広くメンタルヘルス問題について理解していくとともに、その中でもアディクション問題（依存症などの嗜癖問題）に焦点化したソーシャルワークがどのようにあるべきかを深めていく。そのことで、メンタルヘルス問題を精神保健福祉の共通的な課題として理解していくとともに、ソーシャルワークの視点を醸成していくことを目指していく。</p>					
科目名	精神・発達障害者の理解と共働	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目(クラス制科目)
		担当教員	青木聖久		
<p>2013年の障害者雇用促進法の改正により、2018年から精神障害者が、法定雇用率の算定基礎に加わるようになった。したがって、段階的に企業の法定雇用率が上昇することから、精神障害者の雇用が喫緊の課題となっている。その一方で、すでに、2017年度の新規の就職件数は、精神障害者が全障害者のなかにおいて、約半数を占めている。とはいえ、精神障害者の職場定着率は、きわめて厳しい状況にある。なお、2011年の障害者基本法の改正により、発達障害者が精神障害者に含まれるようになった。よって、精神障害者の範囲には、発達障害者、さらには、高次脳機能障害者も含んでいる。他方、近年うつ病等を患いながら、勤務を続ける者や、職場復帰を目指す者も多い。これらのことから、職場で精神・発達障害者と働くことについて、知識や技術を持つことは、重要なこととなる。また、職場管理の立場の者にとっては、法定雇用という側面のみならず、精神疾患を生み出さない会社づくり、という点からも意義深い。以上のことをふまえ、本講義では、各々の学生が主体的参加のもと、まず、テーマについて考え、事前レポートを提出することから始める。そして、グループワークで深めることによって、精神・発達障害者のニーズ把握、共働のあり方等をはかる。また、精神・発達障害を持っている者の生の声を聴く機会も設ける。これらを通して、本講義では、職場において精神・発達障害者と共に働くことの意味と意義、さらには、実践的な方法等について学ぶことを目的とする。</p> <p>・精神科を持つ病院や福祉施設で精神保健福祉士として勤務した経験のある教員が、精神保健福祉に関する講義を行う。</p>					
科目名	障害者政策と自立支援	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	綿祐二		
<p>障害者政策は、歴史の変遷は決して明るくない。「隔離政策」「優性思想」「差別」など多くの負の遺産が存在する。デンマーク社会省知的障害課の職員であったバンク・ミケルセン（Bank - Mikkelsen, Neils Erik1919～1990）は、1953年、親の会の要望から「知的障害者福祉政策委員会」が設置し、1958年報告書で「知的障害があってもその人は一人の人格を持っているのであり、ノーマルな人と同じように生活する権利を持つ」とノーマライゼーションの思想を確立した。このノーマライゼーションが障害者福祉の世界に大きな影響を与えたのは事実である。本講義では、障害福祉政策の歴史の変遷を追いながら、「そこにある矛盾」を考えていく。日本も2006年の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法）を契機にこれまでの方向性から大きく変遷した。世界の障害者政策を概観しつつ、日本の障害者政策を検証する。</p> <p>・障害者福祉施設で相談援助業務に従事し、かつ社会福祉法人理事長である教員が、障害者福祉現場における課題や人材養成に関する講義を行う。</p>					
科目名	脳のエイジングと認知機能	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	城川哲也		
<p>わたしたちの脳が加齢に伴い衰えていくことは避けられないとしても、脳細胞の喪失によって直ちにわたしたちの知性や性格が失われるわけではない。その理由として、脳の可塑性—内外の環境変化に対して脳自身が変化しうる能力—が考えられている。不幸にして脳が病気がかかった場合でも、認知機能は失われるばかりではないことが多くの臨床例から明らかになっている。こうした脳自身に備わる力がある一方で、内外の環境が脳の認知機能に及ぼす影響が明らかになってきている。さらに、超長寿を達成した人の認知機能には、ある特徴があることが知られている。講義ではこうした多くの例をもとに議論し、脳が老いる意味について考える。</p>					
科目名	福祉とテクノロジー活用	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	巖淵守		
<p>障害のある人や高齢者にとってコミュニケーションや社会とのつながりを確保することがいかに重要かを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●障害のある人や高齢者のQOL向上として、身体的な状況、医療的介入（治療等）に焦点があてられがちであるが、AACという視点でのアプローチにより、本人の意欲を引き出す手法について、理解を深める。</li> <li>●AACとは、Augmentative &amp; Alternative Communicationの略で、拡大・代替コミュニケーションと訳されている。</li> <li>●本人の自己決定や自己選択を引き出すため、「その人に残された能力とテクノロジーの力で自分の意思を相手に伝えること」を実現する技術を学ぶ。</li> </ul> <p>多様なコミュニケーションを実現する手法として、テクノロジーの有効性を実感する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●現代社会において、自分自身がいかにテクノロジー（IT等）の恩恵を受けて生活しているかを実感しつつ、AACのアプローチにおいて、ATの重要性と活用方法を学ぶ。</li> <li>●ATとは、Assistive Technologyの略で、障害のある人の生活を支えるために利用される技術を指す。</li> <li>●特に身の回りにおける便利なテクノロジーを中心に活用可能性を考える。</li> <li>●また、これらを推進するための社会的な課題（制度改革、意識改革・支援人材の育成等）についても学ぶ。</li> </ul>					

科目名	ユニバーサルデザインと暮らし	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	星川安之、森川美和		
<p>ユニバーサルデザインを理解する</p> <p>私たちの暮らしの中に、「ユニバーサルデザイン」という言葉が浸透し、最近各分野において、ユニバーサルデザインの視点からの設計や基準の見直しが活発になってきている。しかし、福祉分野では、この考え方が大切でかつ応用できる工夫や製品が数多くあるにも関わらず、見過ごされてしまっているケースがある。ユニバーサルデザインおよび関連する概念を学ぶとともに、ユニバーサルデザインが人々の暮らしに与える効果・意義について考える。</p>					
科目名	地域包括ケアシステムと未来型先端テクノロジー	単位数	2単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	尾林和子		
<p>世界に類をみない超高齢社会を迎えている日本では、2025年には介護人材が34万人不足するといわれ、高齢社会を支えるAI、ICT、IOTを始めとするテクノロジー開発導入への期待はとて高い。一方、介護現場は極めてプライベートな空間であり、そこで求められるサービスは個性が高く、「ヒト」の手による「温もりのあるサービス」がより評価される。一般にテクノロジーについては「機械」であるがゆえに画一的であるという懸念を持たれがちであるが、AIを始めとするテクノロジーの進歩は急速で、今や「個別ケア」の実践に必要な情報収集や管理の場面では欠くべからざる存在となっている。これからの福祉経営を担う者はテクノロジー推進について知見や見識を持つことを要求される。この講座では、まず、世界からみた日本の超高齢社会の現状を学ぶ。ついで、現在日本で開発されているAIを始めとする未来型先端テクノロジーの開発状態のプロセスを知る。テクノロジーリテラシーへの理解と導入の際に留意すべき点として、個人の尊厳の尊重、セキュアな配慮の方法や科学的根拠による導入の必要性がわかる。これからの地域包括ケアに必要な未来型先端テクノロジー活用の創造的プロセスを学ぶ。</p>					
科目名	アディクションとソーシャルワーク	単位数	2単位	科目形態	オンデマンド科目
		担当教員	田中和彦		
<p>「何かに依存している」という言葉は、ネガティブな印象をもって語られることが多く、支援の現場においても表面的な問題の対処に苦慮し、結果として医療・保健・福祉の領域で「依存症は難しい」「依存症にはかわりたくない」という忌避感情の強い現状がある。しかしアルコール健康障害対策基本法施行（2014年）、薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部執行猶予に関する法律施行（2016年）、ギャンブル等依存症対策基本法（2018年）、精神保健福祉士養成課程の養成の在り方等に関する検討会中間報告書における依存症支援体制整備の必要性（2019年）というように、依存症対策及び依存症への支援の必要性は広がりを見せ、ソーシャルワークにおいても実践の質の向上が急務である。本講義では依存症をアルコールや薬物の物質依存にとどまらず、行動嗜癖を含んだより幅広い概念である「アディクション」ととらえ、アディクションに対するソーシャルワークの視点とアセスメント、支援の方法について講義し、アディクションからの回復と回復へのかかわりについて考察を深めていく。</p>					

## 【フィールドスタディ科目】

科目名	スウェーデン研修	単位数	4単位	科目形態	スクーリング科目
		担当教員	藤森克彦、訓覇法子		
<p>現代社会の変容に伴って人々が遭遇する社会的事故は多様化し、生活の安全が脅かされる。私たちの生活の根幹に関わる政策が、貧困縮小や生活の安全・向上を目的とする社会政策である。社会政策を国際的視点から見ると、選別的最低限保障を基礎とする日本の社会保障制度と異なり、スウェーデンは普遍的スタンダード保障を原則とする数少ない国のひとつである。福祉国家とは何か？特に、教育、労働、家族という基本的な生活ニーズの充足という観点から、スウェーデン社会はどのように構築され、どのように機能するのか？事前学習と現地での見学ならびに見学を深めるセミナーによってスウェーデン福祉国家を考察する。同時に、スウェーデン福祉国家の生活安全保障制度を基軸として、日本の生活安全保障制度の特質とその限界性を批判的に検証する。</p> <p>学習目標</p> <p>①現代社会政策に関する基本的な知識を国際的視点から修得する。</p> <p>②スウェーデンと日本の比較を通して、国際比較手法に必要な知識を修得する。</p> <p>③見学や現地の人々との交流によって、スウェーデンの生活習慣や政治文化などを学ぶ。</p>					

## (3) 資格科目（演習・実習科目）

### 【社会福祉士国家試験受験資格】

科目名	相談援助演習Ⅰ	社	単位数	2単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目（クラス制科目）
			学年配当	3年	担当教員	（調整中）
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助の知識と技術を具体的に学ぶ科目であり、テキストでの基礎学習をふまえ、スクーリングではロールプレイングなどを活用して実践的な学びを深める。</li> <li>「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」や、他の社会福祉士指定科目で学んできた知識と関連して学習し、相談援助実践の知識・技術・価値の理解を深める。</li> <li>スクーリングを通して、援助専門職をめざす自己について洞察し、自己覚知を深めるとともに、基礎的なコミュニケーション技術の習得をめざす。</li> </ul>						

科目名	相談援助演習Ⅱ	社	単位数	4単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	3年	担当教員	(調整中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助の知識と技術を具体的に学ぶ科目であり、相談援助演習Ⅰの学習成果をふまえ、スクーリングではロールプレイングなどを通して技術指導を行なう。</li> <li>「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」や、他の社会福祉士指定科目で学んできた知識と関連して学習し、相談援助実践のプロセスや援助における社会資源の活用・開発について実践的な学びを深めるためのグループによる学習、個別指導を行なう。</li> <li>具体的な援助場面(課題別の事例)を用いた演習を通して、総合的かつ包括的な援助を実践的に学ぶ。</li> </ul>						
科目名	相談援助演習Ⅲ	社	単位数	4単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助の知識と技術を具体的に学ぶ科目であり、相談援助演習Ⅰ・Ⅱの学習成果及び相談援助実習の経験をふまえ、スクーリングではロールプレイングなどを通して技術指導を行なう。</li> <li>「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅲ」や、他の社会福祉士指定科目で学んできた知識と関連して学習し、相談援助実践のプロセスや援助における社会資源の活用・開発について実践的な学びを深めるためのグループによる学習、個別指導を行なう。</li> <li>相談援助実習等における具体的な援助場面を用いた演習を通して、現場での個々の実践を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる力を涵養する。</li> </ul>						
科目名	相談援助実習指導Ⅰ	社	単位数	3単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	3年	担当教員	(調整中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>相談援助実習の意義を理解し、実習の問題意識や目的意識を明確にできるよう個別指導、集団指導を行う。</li> <li>相談援助実習に必要な倫理や態度、相談援助に関する知識と技術についての理解を深める。</li> <li>実習施設に関する基本的な理解(施設・事業者・地域社会等に関する理解)を進め、実習施設で行われる相談援助業務や関連業務についての理解を促す。</li> <li>福祉の現場体験を通して、実習施設の利用者やサービスについて実際的な理解をし、次年度の実習準備を進める。</li> </ul>						
科目名	相談援助実習指導Ⅱ	社	単位数	3単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>個別指導並びに集団指導を通して、問題意識や目的意識を明確にして実習に臨めるように実習計画書の作成を指導する。</li> <li>実習前教育として、実習日誌等の記録の作成技術の指導を行い、実習報告書等の作成を行うことにより、自らの実習内容を理論化し、表現する能力を涵養する指導を行う。</li> <li>実習における個人のプライバシー保護と守秘義務について学び、実習生としてふさわしい倫理観や態度の涵養をする。</li> <li>実習中には、担当教員による巡回指導を行う。</li> <li>実習後教育では、個々の具体的な体験や援助技術を総括し、実習報告書の作成や実習報告会等を通して、それらを専門技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を身につけることができるよう指導する。</li> </ul>						
科目名	相談援助実習	社	単位数	4単位	科目形態	実習科目
			学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働大臣が別に定める実習施設及び事業で行う。</li> <li>相談援助実習は、実習施設において24日間かつ180時間以上の実習をしなければならない。</li> <li>相談援助実習を通して、地域社会で求められる社会福祉士として必要な知識及び技術等の理解を深めるとともに、専門職に求められる資質・技能・倫理観を習得できるよう、実習前教育、実習中教育(巡回指導を含む)及び実習後教育を行う。</li> </ul>						

## 【精神保健福祉士国家試験受験資格】

科目名	精神保健福祉援助演習Ⅰ	精	単位数	2単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	3年	担当教員	(調整中)
<p>精神保健福祉援助演習Ⅰは、精神保健福祉士に必要な知識・技術を具体的に学ぶ科目であり、テキストでの基礎学習、及び、スクーリングでのグループワークなどを用いて、実践的な学びを深める科目である。授業では、個別指導、並びに集団指導を通して、精神障害者の個別事例の検討を行う。また、地域福祉の基盤整備や開発に係る具体的な相談事例等を通して、精神保健福祉援助のあり方について、体系的に学ぶものである。</p>						
科目名	精神保健福祉援助演習Ⅱ	精	単位数	4単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<p>精神保健福祉援助演習Ⅱは、相談援助についての理解を深めるために、保健・医療・福祉の連携や、ピアサポート、家族会、ボランティアとの協働をはじめ、総合的かつ包括的な相談援助のあり方について体系的に学ぶ科目である。とりわけ相談援助事例については、多角的に、多様なものを取り上げる。また授業では、個別指導、並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導(ロールプレイング等)やグループワークを用いた演習等によって行う。</p>						
科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精	単位数	2単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
			学年配当	3年	担当教員	(調整中)
<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅰは、精神保健福祉士を目指す者が、具体的に実習をする前の段階において、精神保健福祉士、及び、精神障害者について理解するための科目である。具体的には、精神保健福祉援助実習の意義や意味を知ると共に、精神障害者の体系的な理解を目指す。また、精神保健福祉援助実習を進めるために必要となる取り組み方法や、精神障害者を取り巻く状況についても理解することを目指すものである。</p>						

科目名	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ <b>精</b>	単位数	4単位	科目形態	テキスト・スクーリング併修科目(クラス制科目)
		学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<p>精神保健福祉援助実習指導Ⅱは、個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について、具体的かつ实际的に理解すると共に、実践的な技術等を体得することを旨とする科目である。</p> <p>また、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を養う。さらに、具体的な体験や援助活動を、専門的知識及び技術として概念化し、そして、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養するものである。</p>					
科目名	精神保健福祉援助実習 <b>精</b>	単位数	5単位	科目形態	実習科目
		学年配当	4年	担当教員	(調整中)
<p>本科目は、現場実習を軸に、精神障害者の医療と生活にかかわる諸施設・諸機関(医療機関、社会復帰施設、行政機関など)の実情、及びそれらを利用している精神障害者・家族への理解を深める。また、精神障害者の「疾患」「障害」の実態と、そこから生じる「生活課題」を把握し、精神障害者や家族とともに、その改善・解決に向かう精神保健福祉士の幅広い実践を学ぶ。さらに、スクーリング等で討議を深め、精神保健福祉領域における社会福祉実践とは何かについて明らかにすることを旨とする。</p> <p>そして、具体的には、以下のような内容のもと、精神保健福祉援助実習を行うものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健福祉援助実習は、厚生労働大臣が別に定める実習施設及び機関等で行う。</li> <li>精神保健福祉援助実習は、28日間かつ210時間以上の実習をしなければならない。そのうち12日間(90時間)以上は医療機関での実習とする。</li> <li>精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術等を体得する。</li> <li>精神保健福祉援助実習を行うにあたっては、実習前の担当教員による個別面接を行うと共に、実習中に巡回指導を実施する。</li> </ul>					

# 日本福祉大学通信教育部

福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科

〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田 日本福祉大学 通信教育部事務室

TEL : 0569-87-2932 FAX : 0569-87-2308

E-mail : tsqa@ml.n-fukushi.ac.jp URL : <https://www.nfu.ne.jp/>